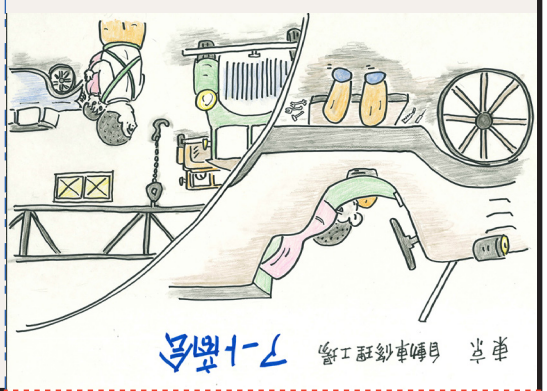
浜松の偉人シリーズ ミニ折本【本田宗一郎 編】

A3 サイズで印刷して、線のとおりに切り込みを入れ、折ってください

切る ━━━ 山折 ┈┈┈ 谷折 - - - -



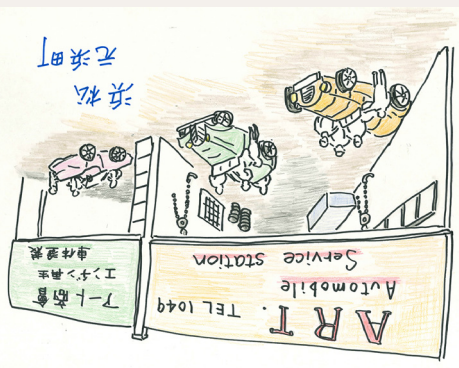
宗一郎は、二俣高等小学校（今の高校）に進学する時、中学に行くのかお父さんの仕事を継ぐのか迷いました。

ある日、雑誌を読んでいると、自動車の仕事ができる東京の修理工場の募集記事が目に入りました。

その工場が、「アート商会」という会社でした。

お父さんを説得して、東京アート商会に就職しました。

ですが、仕事といえば、工場の清掃と工具の整頓、親方の子どもの子守ばかり。「俺も、車を早く運転してみたい。」と思う日々が、続きました。



こうして、宗一郎は東京で6年間修業をして、一人前の自動車修理の職人へと成長しました。

宗一郎、22才。

独立して店をだすことが、親方から許されました。

今の浜松市中央区元浜町に、「アート商会浜松支店」をつくりました。

腕がよく、仕事が早い。

自動車修理の商売が、繁盛しました。

宗一郎は、誰よりも朝早くから夜遅くまで働きました。

手先が器用で、耳がいい。

どこが故障しているか、音ですぐわかりました。

●出来事その２

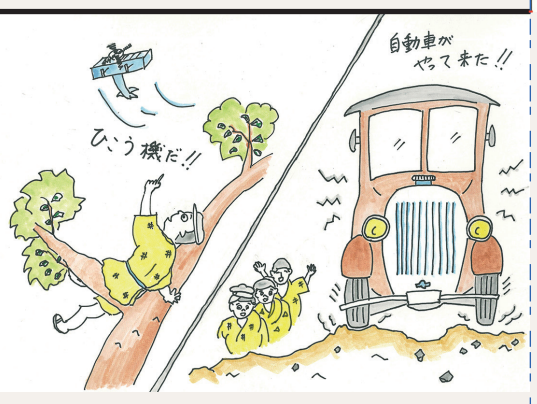
宗一郎が子どものころ、日本には 1,300 台ほどしか車がありませんでした。

自動車を見たことのない人が圧倒的に多かった時代、宗一郎が住んでいる光明村に、初めて自動車がやってきました。

それは大事件です。

子どもたちは声をあげながら、自動車を追いかけます。

このとき、宗一郎は、自動車をつくる仕事をしたいと心に決めました。



そこで、およそ 20km の距離を自転車で片道 4 時間かけて一人出かけました。

宗一郎は木に登りアクロバット飛行を見て、「アート・スミスのようなパイロットになりたい。」と強く思いました。

本田宗一郎は、明治 39 年（1906 年）静岡県磐田郡光明村（今の浜松市天竜区二俣）に、鍛冶屋の長男として生まれました。

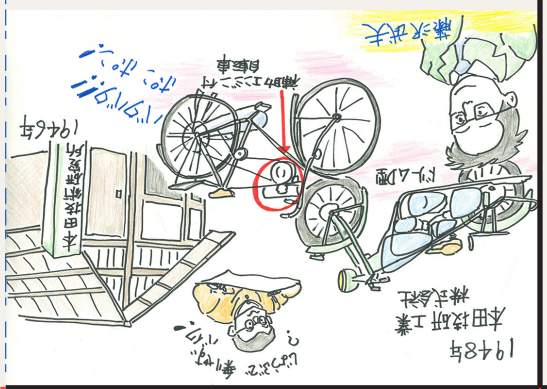
コウモリの巣を見つければ、洞窟探検をするなど、宗一郎は、天竜の自然の中で遊びまわる少年でした。

宗一郎が子どものころ、二つの大きな出来事がありました。

●出来事その１

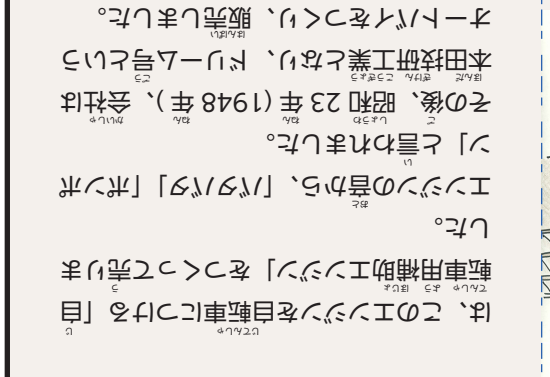
小学校５年生のとき、アクロバット飛行の興行がスタームでした。

宗一郎は、パイロットのアート・スミスが、今の浜松市中央区の和地山公園あたりで飛行ショーをすることを知りました。



戦争が終わった翌年、宗一郎は、今の浜松市中央区山下町に本田技術研究所をつくりました。

軍隊で使っていた、いらなくなった無線機発電用の小型エンジンを見た宗一郎は、そのエンジンを改良して、自転車に取り付けました。



けれど、失敗の連続。

さらに研究するために、浜松高等工業学校（今の静岡大学工学部）の学生になりました。翌年ピストンリングが、やっとできました。

そこで、トヨタに売り込み３万本試作しそのうち 50 本納品。検査合格３本という状態でした。

それから 2 年後、ピストンリングの大量生産ができるようになりました。

まもなく時代は、第 2 次世界大戦を迎えました。

宗一郎は、もっとやりがいのある仕事はないかと考えました。

昭和 11 年（1936 年）、周りの反対を押し切り、東海精機株式会社をつくってピストンリングの製造に取り掛かりました。

藤沢は、会社の経営や販売に全力で取り組みました。

それにより宗一郎は、オートバイの製造や研究に集中することができました。

小さな町工場を一代で「世界の HONDA」に育て上げ、オートバイのまち浜松」の礎を築いた人、本田宗一郎。「はままつオートバイ物語」の始まりです。

浜松科学館で会いましょう！

常設展 2 階 展示「本田宗一郎」

主な参考資料

・YouTube「Honda 原点コミック」
本田技研工業株式会社
・「私の手が語る」本田宗一郎／講談社
・「スピードに生きる」本田宗一郎／実業之友社

浜松科学館
Hamamatsu Science Museum

作成：2025 年　監修：本田技研工業株式会社

昭和 27 年（1952 年）になり、本社を浜松から東京に移します。

その後、宗一郎は、オートバイのスピードを争う最も厳しい国際レース、マン島ＴＴレースに参加し、優勝しました。

ホンダのオートバイは、さらに改良を重ねられ、国の内外でナンバーワンと言われるようになりました。

そして、自動車の生産にも取り組み、今日の“世界のホンダ”としてトップを目指し続けています。

作成：浜松科学館　監修：本田技研工業株式会社